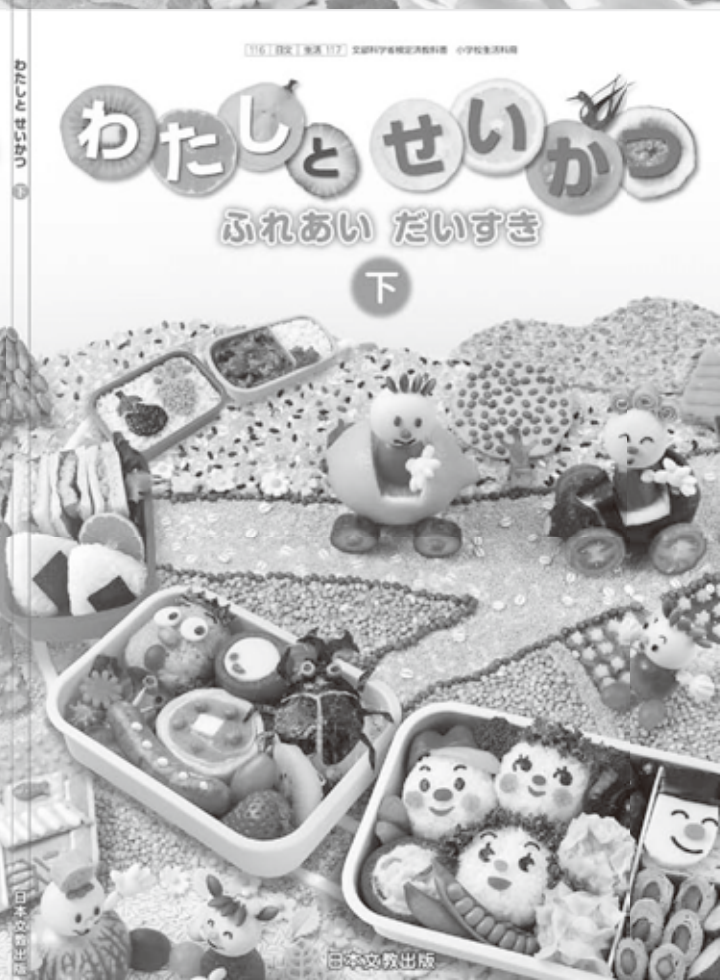
新版 生活科教科書特集



平成23年度版日文生活科教科書が，無事文部科学省の検定に合格しました。そこで，今回の特集では「授業でどのように使えるか」というポイントに焦点を絞って教科書の内容を紹介します。

◇表紙について◇

新版では，「食育」をテーマに，上下巻での生活科の学習活動をすべて食材で表現しました。上巻はランチプレート，下巻は弁当箱をイメージし，最後までおいしく食べようというメッセージがこめられています。

※表紙に使われた食材は，撮影後，残さず編集部でいただきました(^ - ^)b

第１部　新版 教科書6大ポイント

今回の教科書をつくる上で特に大切にした六つのポイントから，日文が考える生活科の理念を解説します。

① 探究的・問題解決的な学びのプロセス

新しい学習指導要領の基盤ともなっているOECDのキー・コンピテンシー（世界標準学力）においては，協同的に問題解決を図る力の育成を強く提言しています。本教科書では，基本的な単元構成において「対象と出合う・かかわる」→「疑問や興味をもつ」→「計画をたてる」→「追究する」→「まとめ・発信する」→「振り返って自信をはぐくむ」といった**探究的・問題解決的なプロセス**を取り入れています。

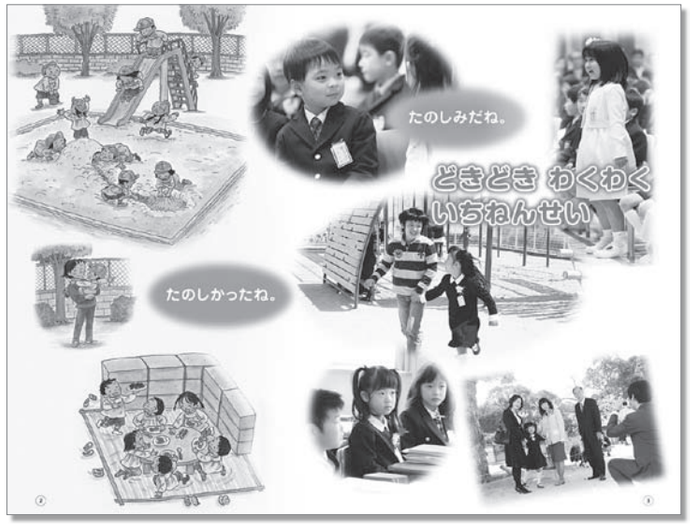
その際に，同級生どうし，異なる学年の友だち，保護者や地域の人などとかかわりながら，協同的に取り組んでいく学びを重視しています。

具体的な授業イメージ
6ページへ

② カリキュラムの連続性と人的交流の連続性（幼保小連携）

本教科書では，第一単元「がっこう だいすき ともだち だいすき」を**２部構成**にしています。

第１部　本教科書では，生活科の始まりを小学校入学時におくのではなく，幼稚園・保育園での生活で学んだことからスタートしています。紙面では，小学校生活に慣れるためのオリエンテーション的な面を紹介するとともに，幼稚園や保育園とよく似た学びのスタイルを紹介しています。幼・保と小学校の学びのカリキュラムが連続していることで，小学校にスムーズに順応していけることと，幼・保での学びのよさを生かせる生活科の展開の例を示しています。最初から“授業”にこだわらなくてもよいという新しい提案です。



幼稚園での楽しかった思い出を肯定し，小学校生活への期待を抱かせる　上巻2-3ページ

第２部　学校たんけんでかかわった人とのコミュニケーションを大切にしています。また，この単元だけで終わるのではなく，幼児とのかかわりを含め，その後もつづく人的交流を意識した構成になっています。初めて会う人との接し方・人間関係の基礎を学び，それを応用して継続的にかかわることを大事にしています。

具体的な授業イメージ
7ページへ

③ 生活科で育てたい「確かな学力」としてのスキル

日文生活科教科書でいう“スキル”とは，小手先のテクニックではなく，一連の学習活動を通して**生活科で育てたい「確かな学力」**のことです。

「このページでどんな活動をしたらいいの？どんな力を育てたらいいの？」生活科の教科書を手にした先生方から時折聞く言葉です。そこで，本教科書で導入しているのが「マーク」です。このマークは探究的・問題解決的なプロセスにおいて子どもが活用するべき力を表しており，前述のキー・コンピテンシーにも重なるものです。スキルは繰り返し活用することによって身に付くものです。現行教科書で好評でしたので，新版ではさらにマークを増やしています。

みんなで はなしあおう。	あんぜんに きを つけよう。
しらべて みよう。やって みよう。	new からだじゅうで かんじて みよう。
おもいだして みよう。	new つくったり かいたりして みよう。
いろいろな ひとと はなしを しよう。	ふりかえる ぺえじ。

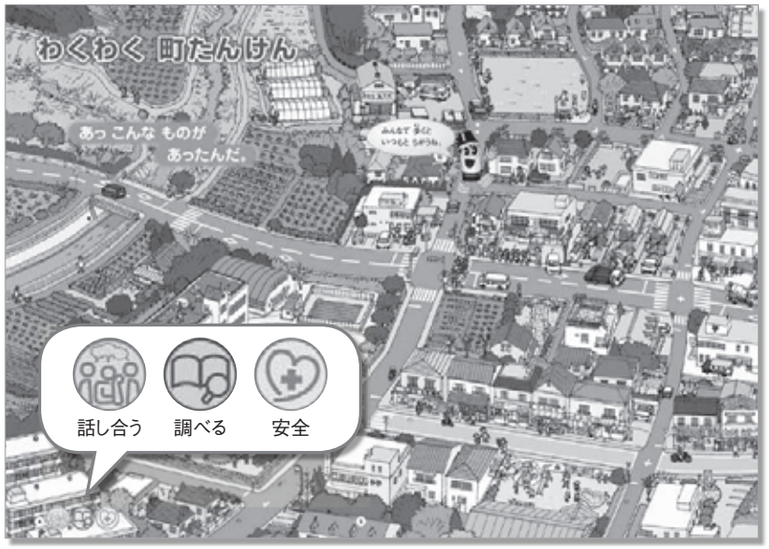
全8種類のマーク　　上巻1ページ

◇マークは教師への気付きを促します　　～下巻 町たんけんの場合～

今までの町たんけんの活動を振り返ると，行ってから「しまった」と思うことがよくありました。町を見る視点や安全のことなどについて，子どもたちとしっかりと考える時間を設けていなかったからです。

しかし教科書にあるマークを活用して「調べる」「話し合う」「安全」ということを意識させれば，より豊かな学習ができそうだということがわかりました。

A先生



マークは全見開きの左下に配置されています。　　下巻4-5ページ

◇マークを活用した言葉がけの例

「さあ，この後みんなで町に出かけて行くよ。教科書の中の町とわたしたちの町では，どんなところが一緒かな？ちがうかな？」（調べるマーク）

「どんなことを見てきたいかな，みんなで話し合おうね」（調べる・話し合うマーク）

「いろいろな人がいるけど，どんなあいさつをしたらいいかな？」（話し合うマーク）

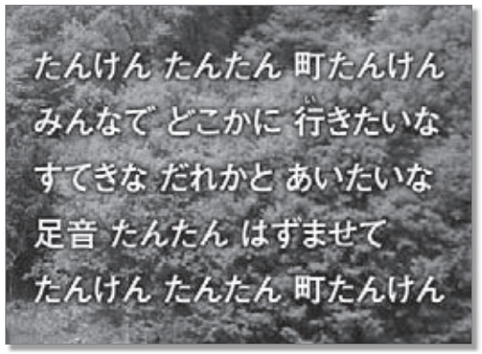
「町に出かけたら，どんなことに気を付けたらいいかな？」（安全マーク）

④ 豊かな言語活動・伝え合い活動を促す様々な工夫

様々な交流場面における「美しい日本語」を紹介　下巻126ページ

今次改訂ではすべての教科等において**言語活動の充実**が提言されています。これは生活科においても同様です。新しく加わった生活科の内容（8）にも示されています。様々に体験したことを記録したり，子どもどうし話し合ったり，多様な年齢や立場の人とかかわったりと，生活科は生きた言語を身に付けていく重要な時間です。本教科書では，豊かな言語活動を引き出すための**三つの工夫**があります。

多様なカード　下巻87ページ



心と体が踊り出す詩　下巻3ページ

1年生がつくった俳句
上巻74ページ

人とのかかわりを大切にしたイラスト
下巻10ページ

一つ目は友だちだけでなく多様な人と伝え合う様子を，写真やイラストに盛り込んでいることです。子どもたちの「人とかかわりたい」という気持ちを引き出す場面で構成しています。**二つ目**はカードです。活動に応じた多様なカードを紹介するとともに，その整理の仕方やそれぞれの単元での活用の仕方を具体的に示しています。**三つ目**は「美しい日本語」の例示です。多様な人とのかかわりにおいて必要かつ美しい表現を具体的な交流場面において例示しています。また，子どもたちの気付きや感じたものを導き出すような美しい詩や俳句なども紹介しています。

⑤ 自然の不思議さ・面白さを実感させて養う科学的なものの見方・考え方

上巻では，季節をじっくり味わう「さんぽ単元」を大きな柱としています。季節ごとに，同じ町を歩き同じ公園に向かうことで，自然の不思議さ面白さに自ら気付き，十分に味わうことができると考えています。その中で「見つける」「比べる」「たとえる」活動を盛り込み，知的な気付きを促すことを意図して構成しています。

試行錯誤の流れを重視した遊び制作単元　下巻66-67ページ

下巻の「遊び制作単元」では，子ども自らが，遊びをよりよいものにつくりあげる試行錯誤の過程を柱に据えています。ここには，考えることとつくることの面白さがあり，「ここをこう工夫するとこうなる」という仕組みの面白さを体験できるようになっています。また，友だちがつくったものと比べてみたり，新たな可能性に気付いたことをもとにつくり変えてみたりすることも重要です。これらの活動が科学的な見方・考え方を育てることにつながるのです。

具体的な授業イメージ
8ページへ

⑥ 二つの方向（指導する・考えさせる）から安全面を徹底

体験重視の生活科において，安全面の徹底は必然です。

本教科書では，まず安全面について子どもたちに情報を与えて，知識として定着させることを大切にしています。「ポケットずかん」や「なんでもずかん」の中で，子どもたちがよく使う用具の使い方や，交通安全，ルール，マナー，町での危険をともなうことなどを，どの単元でも共通して活用できるよう提示しています。しっかりした安全面の情報を与える機能をもっています。

「さんぽに出て気を付けることはなんだろう?」　上巻48-49ページ

赤いクレヨン
安全・危険に関して子どもの思考を促す言葉を投げかけます。

※クレヨン…お兄さん，お姉さんのような立場で，子どもたちの気付きを促すキャラクター

さらに安全面を徹底するため，子どもたち自身が安全に関する判断の力を身に付けることが大事です。本教科書では，マークやクレヨンに加えて，イラストや写真で安全に関する具体的な場面を提示し，自分の身を守るために，子ども自身に考えさせる工夫をしています。

具体的な授業イメージ
9ページへ

第２部　教科書を活用した授業イメージ

第２部では，本教科書を使うとどのような授業を展開できるのかについて解説します。教師と子どもの対話形式で教科書のある授業風景を紹介します。

A先生

教科書を使って授業を進めていく際の言葉がけの例を紹介します

対話形式なので実際の授業場面を思い浮かべやすいね

Bさん

1 探究的・問題解決的な授業

ウェビングを用いた課題設定　下巻24-25ページ

A先生『みんなはどんな野菜を知ってる？』

みんな「ミニトマト」「ダイコン」「サツマイモ」

A先生『みんなは野菜が好き？』

Bさん「う～ん，僕はダイコン嫌い」

A先生『誰か，ダイコンのおいしい食べ方知ってるって人はいる？』

Cさん「はーい，みそ汁に入っているやわらかいダイコン」

A先生『そうか，おいしい食べ方ってあるんだね。じゃあ目標は，どんな嫌いな人でもおいしく食べられる野菜を育てる，ということにしよう！』

A先生『みんなが育てている野菜の中で，すごく困っていることがあるみたいだけど，どんなことで困っているの？』

Bさん「テントウムシが来て，葉っぱを食べちゃうんだけど，ダイコンが育つか心配」

Cさん「元気がないから病気みたい。病気を治してあげたいよ」

A先生『じゃあ，どうしたらいいかな？』

Cさん「虫を見つけたらすぐとる」

Bさん「野菜博士のおじさんに聞いてみてもいいかな？」

A先生『とってもいい方法ですね。ほかにもっといい方法を思いついた人はいますか？』

Dさん「わたしのうちのおばあちゃんはたくさん野菜をつくっているから，聞いてみたい」

問題発見から解決まで　下巻32-33ページ

絵画・立体作品・カードなどを例示
下巻36-37ページ

解説

振り返りと表現活動をセットとして考えることで，子どもどうしがより情報共有しやすくなり，学習効果をアップさせることにつながります。中でも国語，音楽，図工など，表現活動を重視する教科との関連を図ると，さらに学習が深まります。

2 幼保小連携を意識した授業

幼稚園・保育園で経験した遊びを例示　上巻12-13ページ

◇幼稚園・保育園での学びを生かした友だちづくり

A先生『みんなはどんな遊びを知ってる？幼稚園・保育園ではどんな遊びをやってきた？』

みんな「僕は粘土で遊ぶのが大好き」「幼稚園のころ，シャボン玉で遊んだよ」「だるまさんがころんだはとっても面白いよ」

Cさん「僕は大きな絵を描いてみたいけど，どこだったら描けるかな？」

A先生『そうだね。じゃあ，今度遊ぶ場所を見つけに行こうか。教室でできる遊びは知ってる？』

Dさん「ハンカチ落としをやりたいな。幼稚園の教室でやったよ」

A先生『じゃあ，みんなでやってみよう』

◇学びを生かす人的交流の連続性

A先生『みんなが名人になった秋の遊び，誰に教えてあげたい？だれと一緒に遊びたい？』

Bさん「○○幼稚園の子を呼んで一緒に遊んであげたいな」

Cさん「でもドングリゴマをつくるのは難しいし，危ないし，できるかな」

Dさん「大丈夫，危なくないつくり方を教えてあげればいいんだよ」

秋の遊び。園児と一緒に　上巻80ページ

解説

幼稚園や保育園で経験してきた遊びの中には，生活科に通じる学びのヒントがたくさんあります。そのよさを十分に生かすことで，小学校生活へ自然に対応していくことができます。また，幼児と一緒に遊び，交流活動を行うことも，相手意識やコミュニケーション能力を高めるなどの効果が考えられ，極めて重要な学びになります。

3 自然の不思議さ・面白さを実感させる授業

初夏の公園の様子
上巻54-55ページ

冬の公園の様子。どこが変わったかな?　上巻90-91ページ

◇ビンゴカードを活用しよう

A先生『夏にいた生き物は今でも公園にいるかな？』

Bさん「池にいたカモはまだいるんじゃないかな」

Cさん「チョウチョはいないかもしれない」

A先生『冬の公園に行って，見つけてみたいものをビンゴカードに書いてみよう』

Dさん「カエルはいないんじゃないかな」

A先生『たしかめに行ってみよう。ほかにもいたら教えてね』

◇制作活動で…

A先生『まず試しにつくってみましょう！“せっけい図”を書いてみるといいよ』

Bさん「“せっけい図”をもとにつくってみたら，いい車ができたよ。でも○○ちゃんの方がとってもよく動くんだよ。僕のをもっと動くものにしたいなあ。それにはどうしらいいんだろう」

A先生『材料やつくり方を考えてみよう』

Bさん「うちわであおいだら進むようになったよ」

Cさん「ゴムの付け方を工夫したらよく動くようになったよ」

よりよいものをつくるための工夫　下巻62-63ページ

ゴムの力

風の力

坂（位置エネルギー）

下巻100-101ページ

4 安全に関する指導につながる授業

◇「しっかりと」知識を教える

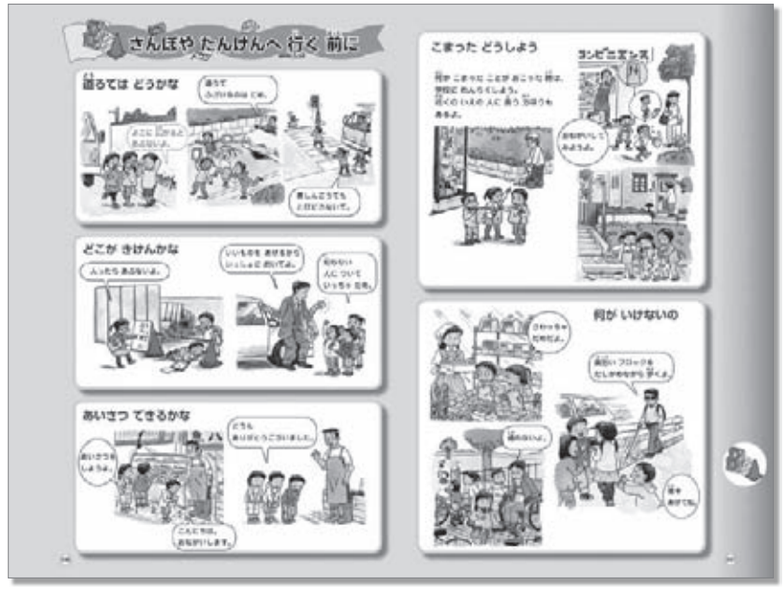
A先生『みんなだったらこんな時どうする？この中で似たようなことを見たことあるかな？』

Bさん「青信号なので横断歩道を渡っていたら，車が来そうになった」

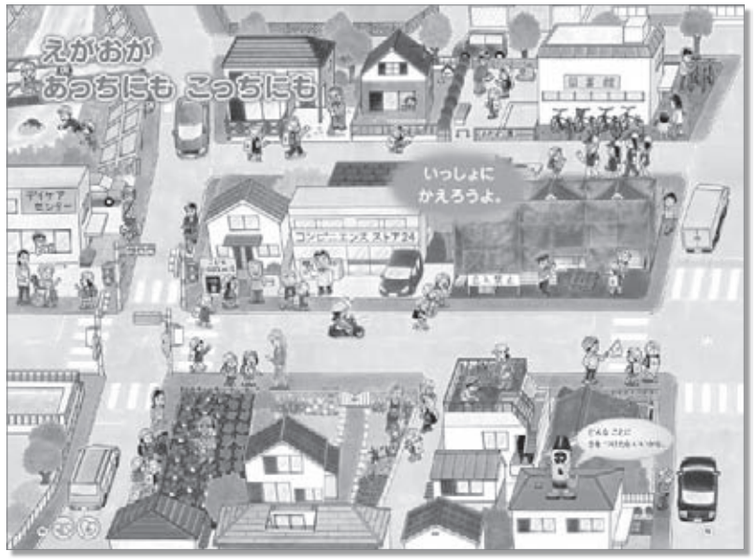
A先生『青信号の時でも左右見なくちゃいけないね』

Cさん「道路で横に広がって歩いていたら，クラクションが鳴ってびっくりしたよ」

A先生『狭い道は一列になって歩かないと危ないね』



ルール・マナー・モラルを教える　下巻106-107ページ



子ども自身が安全について考えることで，意識が徹底する　上巻14-15ページ

◇「じっくり」子どもに考えさせる

A先生『みんなが学校から帰る時に，通学路を通るよね。この絵の中で危ないと思うところを教えてね』

Bさん「歩道を広がって歩いている子がいる」

Bさん「立ち入り禁止の場所に入っているよ」

Bさん「知らないおじさんに何かをもらっている子がいる」

A先生『そうだね，じゃあどうしたらいいんだろう？』

解説

本教科書では，上下巻の各所に子どもたちが自ら安全について考える場面を設定しています。

5 二つのずかんを使った授業

巻末にある「なんでもずかん」は汎用性のある資料を中心に　　下巻104-105ページ

◇まず指導として

A先生『今日はおもちゃをつくるので，最初に用具の使い方を勉強しましょうね』

A先生『つくるものに合わせてぴったりの使い方をしようね。どれがぴったりかな？』

A先生『実際に使う時は，もう一度このページを見てみようね』

みんな「切る」「あける」「つける」

Bさん「そうか，こういう使い方をするとけがしないね。」

Cさん「これを見ながら，しっかりやろう」

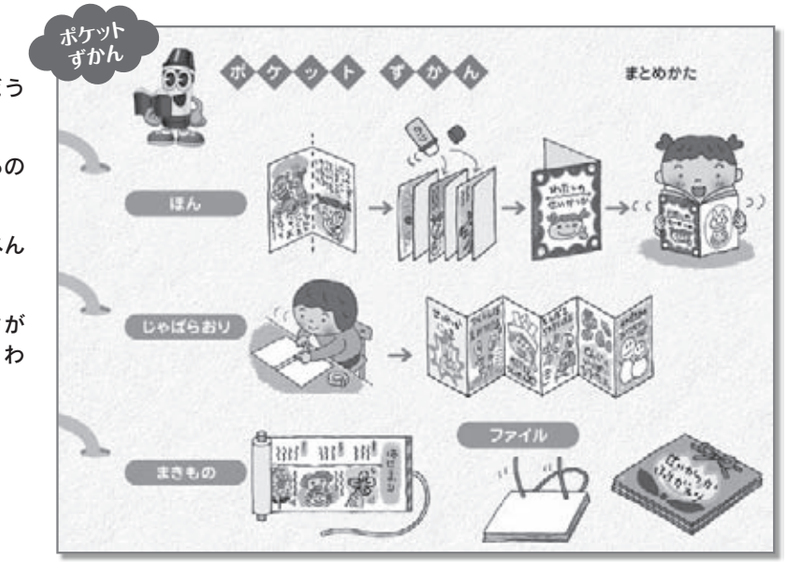
◇調べさせる

A先生『いままで勉強したことをどうまとめたらいいかな？』

Bさん「僕はカードがたくさんあるので，本でまとめてみます」

Cさん「まきものは広げるといっぺんに見られるからいいな」

Dさん「ファイルのひもの結び方が載っているので，これでわかった」



「ポケットずかん」はその単元で必要な知識をすぐ得ることができる　　上巻107ページ

解説

「ポケットずかん」は各単元に折り込むかたちで，体験的な取り組みの知識を写真・イラストを用いてわかりやすく解説しています。

新たに巻末に加わった「なんでもずかん」は，より汎用性のある知識を紹介しています。生き物・食育・国際理解・用具の使い方など扱う分野は多岐にわたっています。

6 使わなければもったいない!?扉写真を活用した導入の授業

本教科書では，各単元の始めのページにその単元を象徴するダイナミックな活動の写真を取り入れています。この写真を使って導入の授業を行うことができます。

意欲をかきたてる飼育単元の扉ページ　　下巻40-41ページ

A先生『何をしようとしてるのかな？』

Bさん「カブトムシを捕まえようとしている！」

A先生『カブトムシはどう思っているかな？』

Cさん「逃げようと思ってる！」

A先生『逃げようと思ってるのかな。ほかには？もっとよく見てごらん』

Dさん「ひょっとしたら気付いてないのかな？」

A先生『どっちだろう。カブトムシってこういう時，人間に気が付くの？』

Eさん「僕，虫を捕まえようとしたら逃げられちゃったことがある。きっと気付いているんだよ」

A先生『じゃあ，この後この子はカブトムシを捕まえられたでしょうか？』

Cさん「手が近いところまでいっているから，捕まえられた！」

A先生『そう。じゃあ，逃げたと思う人？』

Bさん「この子の手はツノをつかもうとしているから，逃げられる！お腹を持てばいいんだよ」

A先生『よく知っているね～。じゃあ，ほかの生き物を捕まえたことがある？何を捕まえた？』

みんな「トンボ」「コオロギ」「バッタ」

A先生『ほかには？ほかには？じゃあ，次の時間は校庭で虫を見つけにいくぞ～。生き物が好きな子は，苦手な子と一緒に行って守ってあげて』

解説

導入の時間で子どもたちの意欲を掘り起こすと，次以降の授業が盛り上がります。この例の場合，生き物が苦手な子も，導入の時間で好きな子に守ってもらうという仕掛かりをつくっておくことで意欲的にかかわらせることができます。

ほかにも魅力的な単元扉写真が満載　　下巻22-23ページ

編集協力：村川雅弘（鳴門教育大学）

もっと紹介 教科書の魅力

本教科書には様々な魅力がありますが，その中でも写真・イラストを中心とした「イメージ」と，多様な表現を駆使した「言葉」は大きな魅力の一つです。ここでは「イメージ」と「言葉」に縁のある二人の協力者に思いを語ってもらいました。

上巻88-89ページ

児童画家：藤田　ひおこ

本教科書のメインイラストレータ。児童書の挿絵やイラストを中心に活躍。主な作品に『シロとのら犬たちの大震災』（毎日新聞社），『ひきだしの魔神』（文研出版）など。

Q 藤田さんがイラストを通して子どもに伝えたい思いは何ですか？

A 絵本，教科書，すべてのイラストを通してそうなのですが，読者の子どもがイラストの中のキャラクターと同じ空間に入り込んで，登場人物と同じ目線で楽しんでもらえたらと願って描いています。登場人物を見て，子どもたちが「これはわたしのことだ！」「これは君じゃないかな」と好奇心をもって見てくれると嬉しいです。

Q 教科書のイラストを描くにあたって特に気を付けたことはありますか？

A 教科書といってもあまり堅くならないように心掛けました。イラストの世界で大いに楽しみながら学んでほしいという思いから，いろんな子どもたちをたくさん描いてみました。

Q 教科書を使う先生方へ，メッセージをお願いします。

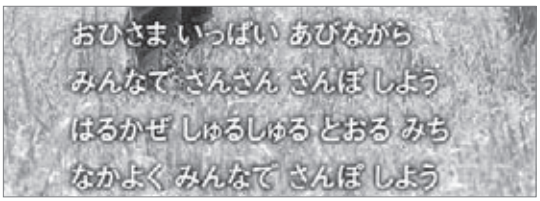
A 先生方にも，子どもたちと一緒に楽しみながら使っていただければ嬉しいです。子どもだけではなくお店やさんなど，大人のイラストもありますので，「この人はどんなことを考えているかな」といった，相手の立場にたって気持ちを考えさせる場面に使っても面白いかと思います。

詩人：村田　さち子

作詞家，翻訳家。本教科書の“言葉”を監修。NHK音楽コンクール中学校課題曲「ミスターモーニング」ほか，小・中・高課題曲を数多く手がける。NHK幼児番組『おかあさんといっしょ』の作詞，音楽教科書への掲載曲多数。

Q 子どもを対象とした本（教科書を含む）の言葉を考える時に，心がけていることは何ですか？

A 美しい言葉，正しい言葉，楽しい言葉，創造力をかきたてる言葉，あとはなるべく物事を限定しない言葉を選んでいます。1，2年生ということもありますので，わかりやすい言葉というのもポイントです。



Q 子どものうちから言葉のセンスを磨くことのメリットについて，お考えをお聞かせ下さい。

A 言葉のセンスを磨くことはとても重要。というのも自分の思いが伝えやすくなるからです。俳句・詩などをつくることはもちろんですが，ちゃんとした本を選んで読むことや，実際に言葉を書くことが大切です。自分で経験したことを自分の言葉で書く，自分で言葉をあみだす，これが大事だと思います。

Q 教科書を使う先生方へ，メッセージをお願いします。

A 先生方には，言葉に命を与えるような工夫をしてほしいです。言葉はやっぱり生き物。先生方にはその言葉がより魅力的に子どもたちに伝わるように，生き生きと話しかけるなどしてもらいたいですね。